

第37回電気通信普及財団賞

テレコム人文学・社会科学部門 総評

第37回テレコム人文学・社会科学賞、テレコム人文学・社会科学学生賞に多数のご応募をいただき有難うございました。

テレコム人文学・社会科学賞は今回、30件の応募をいただきました。そのうち3点が英文論文でした。30件という件数は昨年に比べてやや少ないものの、22件は著書であり、読み応えのある応募作品が多数ありました。また同学生賞への応募は9件であり、そのうち3点が英文論文でした。学生賞への応募作品うちには、学部学生の応募作品が2点あります。

今回の応募論文の内容をみると、研究分野は社会学、経済学、経営学、法学など多岐にわたっています。

また、研究の対象をみても、AI、サイバーセキュリティ、デジタル化など情報通信にかかわるさまざまな問題が取り上げられています。

さて、本論文賞では受賞作品の選定にあたり、予備審査を経た約3割半の作品について厳正な最終選考の結果、今回は入賞1件、奨励賞4件を決定いたしました。受賞した5作品はいずれも単著であり、その中で最高点を得たのは、河島茂生氏の『未来技術の倫理：人工知能・ロボット・サイボーグ』（勁草書房、2020年）でした。同書は、人工知能・ロボットがアロポイエティック・システムであり、オートポイエシスである人間に代替し得ないということを経験的な観点から説得力ある論証により論じており、学術研究として非常に高く評価できます。今後は、目標である未来技術を巡る倫理についての研究をより一層進化されたいと思います。また、その他の受賞作品については、今後の活躍への期待を込めて奨励賞としましたが、膨大な研究・調査をもとに成果をまとめた作品や、全体として構成がしっかりとしており、質的内容がかなり高度で説得力のある作品でした。

テレコム人文学・社会科学学生賞は、予備審査を経た4割強に相当する作品について厳正な最終選考の結果、奨励賞3件となりました。受賞作には大学院生だけでなく、学部生による優れた作品が含まれています。

今後とも、情報通信に関わる様々な分野についての積極的な応募を期待します。

■テレコム人文学・社会科学賞

◆発表形態

著書等	学会誌、雑誌等	書き下ろし (学位論文含む)
22	7	1

◆著者の所属

大学	メーカー企業 (研究所含む)	その他
22	2	6

◆言語

和文	英文
27	3

◆分野別

社会	経済	経営	政策	法律
13	5	3	1	7

その他 1

■テレコム人文学・社会科学学生賞

◆発表形態

学会誌、雑誌等	書き下ろし (学位論文を含む)
6	3

◆著者の所属

学部学生	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)
2	3	4

◆分野別

社会	経営	政策	法律
4	1	1	3